

SESSION 2021

**CAPES  
CONCOURS EXTERNE**

**SECTION : LANGUES VIVANTES ÉTRANGÈRES**

**JAPONAIS**

**COMPOSITION EN JAPONAIS**

Durée : 5 heures

*L'usage de deux dictionnaires unilingues en langue japonaise (un dictionnaire de langue et/ou un dictionnaire de kanji) est autorisé.*

*L'usage de tout ouvrage de référence, de tout autre dictionnaire et de tout matériel informatique ou électronique (dictionnaire électronique, ordinateur, téléphone, calculatrice ou autre) est rigoureusement interdit.*

*Si vous repérez ce qui vous semble être une erreur d'énoncé, vous devez le signaler très lisiblement sur votre copie, en proposer la correction et poursuivre l'épreuve en conséquence. De même, si cela vous conduit à formuler une ou plusieurs hypothèses, vous devez la (ou les) mentionner explicitement.*

**NB : Conformément au principe d'anonymat, votre copie ne doit comporter aucun signe distinctif, tel que nom, signature, origine, etc. Si le travail qui vous est demandé consiste notamment en la rédaction d'un projet ou d'une note, vous devrez impérativement vous abstenir de la signer ou de l'identifier.**

**Tournez la page S.V.P.**

A

## INFORMATION AUX CANDIDATS

Vous trouverez ci-après les codes nécessaires vous permettant de compléter les rubriques figurant en en-tête de votre copie.

Ces codes doivent être reportés sur chacune des copies que vous remettrez.

► **Concours externe du CAPES de l'enseignement public :**

Concours	Section/option	Epreuve	Matière
E B E	0 4 3 0 E	1 0 1	7 8 2 1





Axe : Innovations scientifiques et responsabilité

以上のテーマについて、それぞれの次の5つの資料の比較分析に基づいて問題提起をし、構築された論文を日本語で書いてください。

資料1 :



本多猪四郎監督『ゴジラ』、1954年公開 ポスター

## 資料 2 :

### あすは休日

二〇二七年のある朝。エヌ氏は自分の部屋のベッドの上で、気持ちよさそうに眠っていた。

壁の時計が七時をさすと、それと連動している目ざまし装置が動き、テープの女性の声が再生された。

5 〈もしもし、もうおめざめの時刻でございます。きょうは、おつとめの日でございますわ。さあ……〉

エヌ氏がとくに選んで買ってきたテープだ。やさしく魅力的で、なんともいえない、いい声だ。買ってからしばらくは、彼も朝おきるのが楽しみだった。しかし、もはやなれて、なんとも感じない。こんなことでは目がさめないのだ。

10 エヌ氏が起きないのでテープの音はやみ、こんどはベルの音がはじまった。最初は弱く、しだいに強くなる。しかし、エヌ氏は毛布をかぶり、音をさえぎった。それからねぼけ声でつぶやいた。

「ほっといてくれ。おれは、ねむいんだ……」

15 目ざまし装置は、つぎの動きに移った。ベッドをゆらせたのだ。ゆれが激しくなると、エヌ氏は自分からころがり落ちた。床の上なら、ゆり動かされなくてすむ。

しかし、装置はあくまで任務をつくす。レーダーでねらいをつけ、エヌ氏の鼻めがけて、刺激臭を吹きつける。たまらないにおいだが、ねむいエヌ氏は、まだがまんしている。

(中略)

20 エヌ氏はあきらめ、いやいや起きあがった。これで起きないと電氣的ショックがおそってくる。このへんで、あきらめたほうがいいのだ。

エヌ氏は立ってベッドに戻り、朝食のボタンを押した。壁の一部が開き、簡単な朝食ののった皿と、コーヒーとジュースとが出てくる。彼はベッドの上でそれを食べた。食べ終わると、皿のはしにのっている錠剤を口に入れ、ジュースとともに飲む。

25 それから歯をみがき、ひげをそり、髪をととのえ、服を着て出勤。ベルト道路を乗りかえながら、会社にむかう。途中で知人といっしょになる。

(中略)

ありふれた会話をしているうち、会社につく。入口の壁の、大きなボタンを指で押す。カチリと小さな音ができる。エヌ氏の指紋が識別され、タイムレコーダーによって出勤が記録されたのだ。

席についたとたん、課長がやってきて、書類をどさりと机の上のにのせる。

30 「これを整理して、なんとか片づけてしまってくれ」

「はあ……」

書類の厚さを見て、がっかりする。処理するのは容易ではない。だが仕方がない。つとめているからには、働かなくてはならないのだ。

書類の中にわからない部分があり、別の課に聞きにゆく。電話でもすむのだが、机  
35 からはなれて自分で出かけてゆくのは、気分転換にもなるのだ。

廊下で部長にあう。部長に注意される。

「おい、その服装はなんだ」

「はあ……」

「服のボタンを、よくみがいておけ。胸のバッジが、少しゆがんでいる」

40 「申しわけありません」

「社員はつねに、きちんとした身なりをしていなければならぬ……」

がみがみ言われてから、やっと許される。

(中略)

ひどい目にあった。ぶつぶつ言いながら、エヌ氏は机に戻る。そのうち退社時間となる。またベルト道路で帰宅する。

45 「やれやれ、疲れた」

つぶやきながら外出着をきかえて、ベッドの上に横たわる……。

エヌ氏はここで、われにかえった。朝ベッドの上で食事後に飲んだ薬の作用が終わったのだ。

出勤から帰宅までのことは、その薬品がもたらした幻覚だったのだ。すなわち、エ  
50 ヌ氏はずっとベッドの上で、それを見つづけてきたというわけだ。

この薬は開発されて以来、改良に改良が重ねられてきた。幻覚といっても、ぼんやりしたものではない。細部までリアルで、現実そのものといっていいほどだ。しかも、後までその記憶が残るのだ。

この時代、エヌ氏ばかりでなく、だれもがこの薬を飲んでいる。錠剤は一種類でな  
55 く、出勤の業種の幻覚にはいろいろなものがあるが、まあ似たりよつたりの内容だ。

なぜ本人がつとめに出ず、このようなものを飲むようになったのか。理由は簡単で、  
すべての仕事がオートメーション化し、人間の働く部分が、まるでなくなってしまう  
たからだ。

しかし、人間とは、なにかをせずにはいられないものだ。遊べばいいといっても、  
60 長い長い時間を、たえまなく遊びつづけられるものではない。

そこで、この薬が作られた。勤労感を味わうのは、いいことだ。生きている責務を  
果たしたような気分になり、生きているとの実感や自信を持てる。遊びつづけると人  
間ばかになるが、それを防ぐこともできるのだ。

まあ、そんなむずかしい理屈はどうでもいい。最大の効果は、休日が楽しくなる点  
65 だ。

休日、なんと楽しい響きではないか。人生にちらばる、美しい星々か珠玉のようだ。  
響にみち、充実し、のんびりと自由で、どこか物たりなく、ほろにがさもあり、夕刻  
になるとちょっぴり悲哀もある。

こんな人間的な感覚がほかにあろうか。人生とは、休日で織りなされるべきものな  
70 のだ。

人間から休日を取ったら、何が残る。あくまで、まもらなければならない。そのた  
めには、ほかの日々に薬を飲んで、勤労感を味わわなければならないのだ。

あしたは、そのすばらしい休日なのだ。どう過ごそうかなとあれこれ考え、エヌ氏  
はうれしそうな表情になった。

星新一 短編集『盗賊会社』所収、1968年（新潮文庫、1992年）

### 資料3：

朝、サクラが真っ先にするのは、テレビを点けることだ。ワイドショーを見ながら  
歯を磨いて湯を沸かし、カップ麺の朝食を食べる。飯時にふらりと現れるタツヤはま  
だ来ない。

「あたし、食欲ないから要らない」

5 カップ麺を断ると、サクラはたちまち傷付いた顔をして攻撃に転じた。



「何だよ、健康に悪いから食べたくないってか。えらそうなガキだね。ひのき農園で、放射能を防いでいるつもりなのかよ。エコバカじゃねえの」

そこまで言わなくてもいいのに。優しいところもある癖に、時折、痛ましさを感じるほど攻撃的になるのは、サクラの中に満たされないものがあるからだろう。

10 「来年に迫ったオリンピックの工事が、急ピッチで進んでいます」

ナレーションが聞こえてきて、薔薇香は思わずテレビに目を奪われた。大阪市内で建造中のスタジアムがテレビに映し出された。レポーターがマイクを手にして笑いながら、後ろを指差している。

「こちらが十万人収容のメインスタジアムです」

15 大阪オリンピックの開催が決まったのは、震災の三年後だった。

フクシマと関東の放射能汚染が解決できていないのに、本当に開催できるのか、と当初はずいぶん国内でも反対が目立ったが、この数年、放射能汚染を口にする人はまったくいなくなり、オリンピック一色のお祭りムードになっている。徹底した政府の機密管理のせいだ。

20 だから、おじいちゃんや木村老人、健太や康太などの原発反対派は追われ、排除される運命にあった。もちろん、被曝の象徴である薔薇香も。そして、フクシマに住みつづけるサクラやタツヤも。

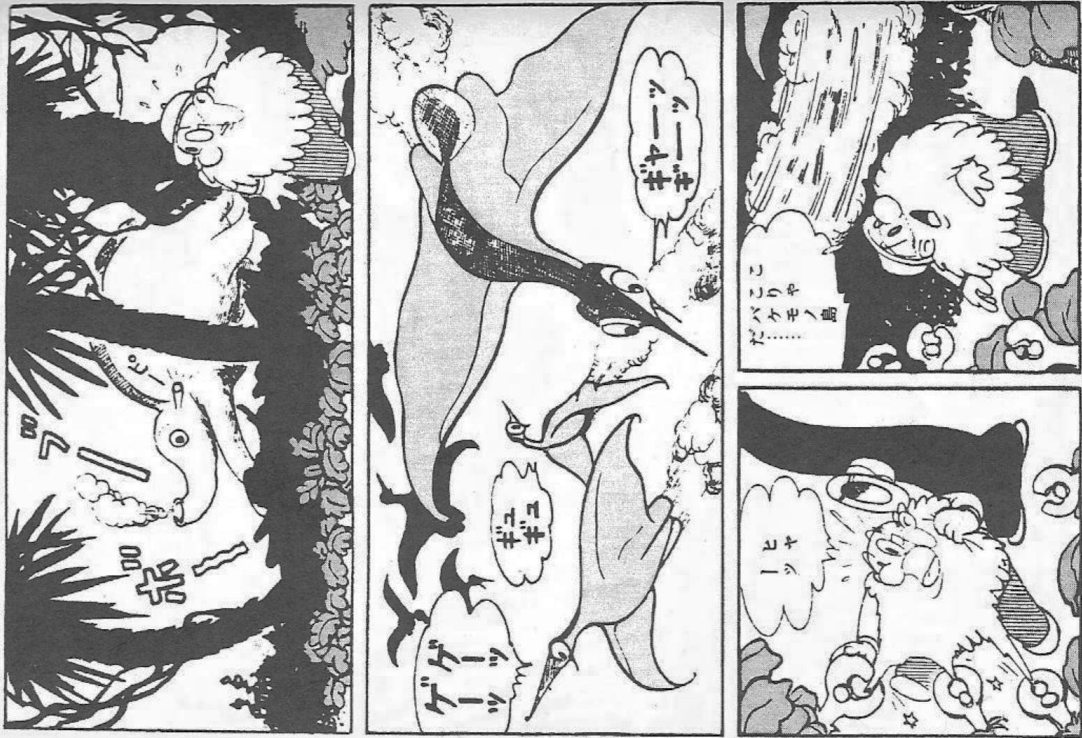
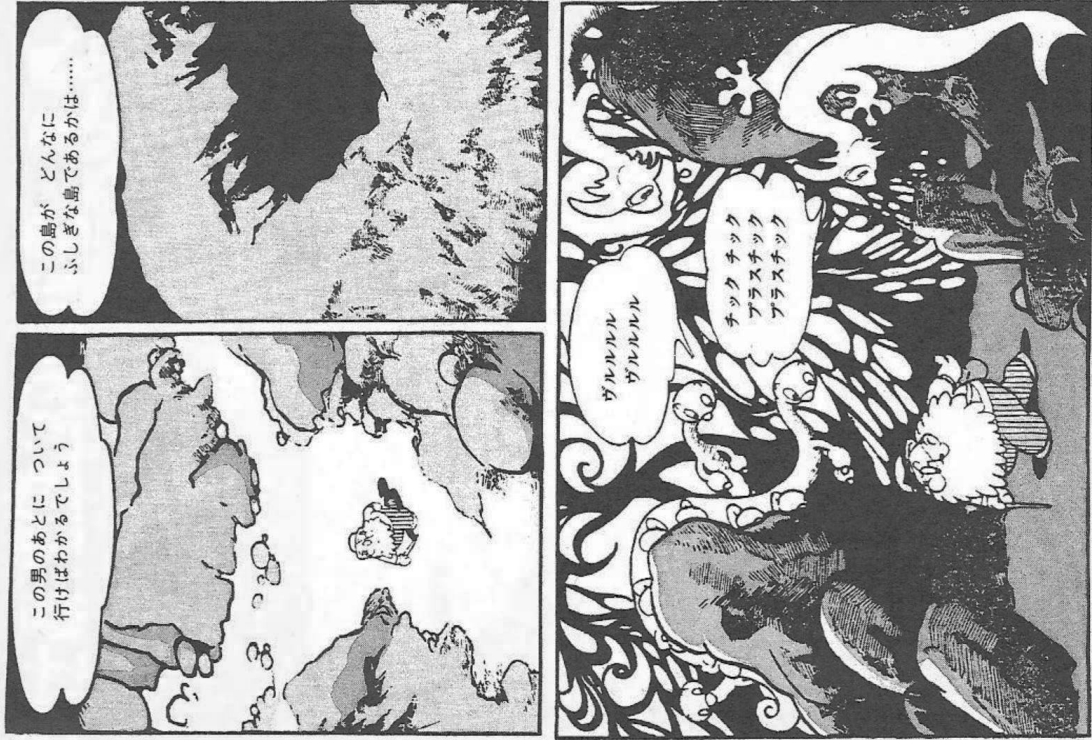
「頭に来る。おめえらが安全だからって、浮かれるんじゃないよ。フクシマの復興を後回しにして、スタジアムかよ。資材も何もかも持って行きやがって。あたしたちは

25 棄民かよ」

サクラが怒り狂って、テレビに跳び蹴りを食らわす真似をする。よほど腹が立ったのか、不機嫌な顔でテレビを消し、代わりにアイフォンのイヤフォンを耳に突っ込んだ。また、好きなブライアン・フェリーでも聞くのだろう。

桐野夏生『バラカ』、2016年（集英社）

資料4 :





手塚治虫『来るべき世界』、1951年（2001年、角川文庫）

## 資料5：

十年間の沈黙と、それにつづく九年間の声の時代についてもうひとりの被爆者の証言を僕は被爆者を囲む懇談会の被爆者代表挨拶で、聞いた。挨拶にたった被爆者は、片眼を失っている老人である。失明といえ、森滝教授もまたひとつの眼を失っている。十九年前、教授は広島高等師範の教師として、学生たちを引率し動員先にいた。

- 5 教授はインクのしみがいちめんにとびちっている当時の日記を保存している。かれは机にむかって、前日の日記を、すなわち一九四五年八月五日の日記を、《美しき朝やけ、竹槍五百本作製》と書きつけたばかりだった。次の瞬間、教授は被爆し、片眼と学生たちを失った。あの<sup>すさま</sup>じい光の<sup>いっせん</sup>一閃のあと失明した人々の数は、歴大だったことだろう。
- 10 老人の挨拶は感動的だった、それは挨拶というより、むしろ、被爆者による原水爆反対運動史である。第一回の原水爆禁止世界大会において、十年間の沈黙のあと被爆者たちは、はじめて自分の声を発する機会をえたのだったが、その大会にあたって広島では、ごく一般の被爆者を公式の演壇に立たせたりしても、それは恥をかかせるだけじゃないか、という慎重派の非難もあったということだ。しかし、ともかく被爆者
- 15 たちは、十年間のまったき沈黙のあと、かれら独自の声を、発することができた。かれらが恥をかいたか、どうだったか、《生きていてよかった！》という広く知られた言葉は、その時、発言の機会をあたえられたあとで、ひとりの被爆者の庶民がもらした感想である。単に、会議で声を発することができただけで、かれは、そのうちのめされた生命の意味を見出したのだ。それは十年間の沈黙がどのようなものであったか
- 20 を、あまりにもあきらかにものがたる言葉ではないか？このような悪しき沈黙の時に、挨拶者の友人で、やはり眼を、しかもふたつながら失った友人の所へアメリカの通信社の東京支局長がやってきた。かれはたまたま戦況が<sup>こうちやく</sup>膠着状態にあった朝鮮戦争について話し、盲目の被爆者にこう訊ねたという。《いま朝鮮に、原爆を二、三発落せば、戦争は終ると思うが、それについて被爆したきみはどう思うかね？》

(後略)

[六四年八月]

大江健三郎『ヒロシマ・ノート』、1965年（1995年、岩波新書）